

ております。7対1の看護体制にすると病院の中期展望なんかもできてるわけですが、ぜひそれを実現するための具体的なアクションを私も起こしていきたいというふうに思いますし、看護学校については、重要課題ですので、取り組んでいきたいと思いますので、よろしくご指導いただきたいと思います。

○町田義昭議長 17番、蒲生吉夫議員。

○17番 蒲生吉夫議員 健康課長にお聞かせ願いたいと思うんですが、来年度は7次の看護師の需給計画として、国の方で調査が21年度終わりますので、22年度にその計画をするんですね。そここのところで、看護師の需給だけでなく、今言ったように学校を設置するにも専任の看護師が今のところ私、6人だと言ってますが、8人になるような検討で以前から動いてるよう思うんですね。そこは情動的に何らかのものがありませんでしょうか。

○町田義昭議長 中井 晃健康課長。

○中井 晃健康課長 第7次の見通しにつきましては、現在国の方で協議が行われておりまして、3月に中間報告が行われるというふうに聞いております。議事録等、一部公表になってるところがありまして、やはり看護師不足が全国的に現在6次の見通しの中で立てた数字以上に生じているということは報告されておりますけれども、新しい養成体制等についてはまだ具体的に出ておりませんので、わかり次第、それを踏まえた上でこちらの方としても今後の対応等について考えていきたいというふうに考えております。

○町田義昭議長 17番、蒲生吉夫議員。

○17番 蒲生吉夫議員 ですから今でも専任の講師を6人を確保するというのは大変だということがわかるんですね。置賜病院でもそういうような答えをしてみました、6人も大変だと。またハードル高くなったらもっと大変なのかなという感じがあるんですね。やっぱり現場の方の

実態が本当に把握されているのかというのは、アンケート形式で行われるんですね、この調査は。それぞれの施設にアンケートを出して、私もちょっととってみたんですけども、意外と簡単に書けそうなアンケートなんです。

これに基づいて調査をして、それで制度設計をしていくというふうにしてはいるのかもしれませんが、やはり学校やなんか不足してるから設置しようと思ってもすぐできるなんていうところはどこもないんですよ。現在の看護学科を持っていない大学で看護学科のところだけ新設しようとする部分は意外と簡単にできるみたいですね。もっと言えば、講師陣が簡単に確保できそうなところというふうになるんだと思います。

そういう意味では、私は大学設置型のものでなければならぬなんて考えていませんし、さっき市長が言ったように、高校設置型だって私はいいと思いますね。山辺の看護学校に置賜の方から結構行ってるんですよ。私の知り合いの子供も2人ほど行ってるのを私知ってます。近くですだからそれぐらいやっぱりニーズがあるんだと思いますね。そういう中で、例えば専門学校の方がいいだとか高校設置型だとか大学設置型だとか、何も問いませんよ、私は。少なくとも、いろんなニーズに合わせてそういうふうにしていくということの方が望ましいのかなというふうに思っております。

時間でありまして、ここの部分については頭に入れておいていただいて、行動をお願いすることにして、質問を終わりたいと思います。

竹田博一議員の質問

○町田義昭議長 次に、順位6番、議席番号1番、竹田博一議員。

(1番竹田博一議員登壇)

○1番 竹田博一議員 本定例会に当たり、通告しています2点について質問させていただきます。

今年、長井の観光の目玉であるあやめ公園が100周年を迎えることは、まことに意義深いものがあります。ことしも見事な美しい花を咲かせてくれることを願いながら、市長並びに商工観光課長にお伺いいたします。

私の家では、少しばかりではございますけども、リンゴを栽培しています。そして贈答用として全国のお客様より買っていただいております。そのお客様の中に奈良県在住の人がおりますが、私の家に電話をかけてきました。話によりますと、昨年、観光バスで長井のあやめ公園に来られたそうです。さぞかしすばらしいものと期待に胸を膨らませて来たそうですが、感想は、「正直がっかりしました。期待外れで、あの程度ならはるばる山形の長井に来なくても見られると思った」ということでもあります。その話を聞いた瞬間、私は石で頭を殴られたようでした。

私は、今まで長井以外のアヤマ祭りを余り見たことがありませんので、長井のアヤマは日本一までもいかななくても、それなりの評価は得られると思っておりましたから、とてもショックでした。観光バスではるばる長井に来られる人はアヤマの花を見るためだけに来ます。そして観光客はとても目が肥えています。その話は全く過小評価ではないはずであります。私は、長井のアヤマは天下一品のアヤマと言われるようにすることが一番大事なことだと考えます。観光客に十二分に満足していただけるためにアヤマの栽培の研究、育成に最大の力を入れるべきではないでしょうか。

次に、長井牛（べこ）まつりについてお伺いします。

これについては、平成20年3月の定例会の一般質問で提案させていただきました。このたび

前向きに取り組んでいただき、うれしく思っているところです。米沢牛は、松阪牛、神戸牛とともに3本の指に数えられる高級ブランド牛であります。また、平成20年に平忠勝というサシ率全国一、枝肉重量3位という質と量を兼ね備えているスーパー種牛の誕生によって生産者の大きな期待にこたえられる成果を上げております。また、最近も景勝21というすばらしい種雄牛もあらわれ、繁殖農家も期待しているところであります。

長井市の肥育農家においても、サシの入ったおいしい肉を生産すべく日々研究、努力しております。そして今まで長井からも数多くのチャンピオン牛を産出したことは長井の誇りに思います。昨年暮れにも、伊佐沢の朝倉幸雄氏がチャンピオンを獲得しました。努力のたまものと思います。

しかし、今、畜産農家の現実はまだまことに厳しいものがあります。最近、穀物から燃料をつくるバイオ燃料の関係から国際的にえさ等の価格が上昇しており、コスト高は免れない状況であります。加えて、こここのところ経済不況で牛肉の価格が低迷し、前途多難な状況であります。それでも畜産農家は所得の向上に必死の思いで取り組んでいるところであります。長井牛まつりは、市長が常日ごろ言っておられます消費拡大、地産地消の面からも大変意義深いものがあると思います。

そこで時期については、あやめ公園100周年記念のアヤマ期間中に実施するのか、また場所はどこなのかをお伺いします。また、あやめ公園100周年記念として開催するとしていますが、この種の事業は継続事業をすることこそが大事と考えますが、ご所見をお伺いします。

次に、3万人復活に関する事業の中の婚活支援事業について市長にお伺いします。

結婚は人生の中で最大の節目であって、だれもが望むことであります。ちょっと前までは、

人によって違いはありますが、20歳から30歳ぐらいが適齢期と言われておりましたが、最近では寿命も延び、適齢期の幅も大幅に広がったような気もいたします。しかし、出会いに恵まれなかったり、健康上の理由であったり、さまざまな理由により結婚をしたくてもできずにいる人は意外と多いのが現実であります。昔は最高のボランティアである「お仲人」という人があちこちにおりました。しかし、今は自分の仕事が忙しいことや、なるかならないかわからないことにかかわりたくないという理由で大幅に減ってしまいました。

そこで、このたび婚活支援によって市民の幸せを願うべく計画したものだと思えます。事業内容では、結婚について長井市全体で支援する機運を醸成することによって活気ある長井市を再生させ、人口3万人復活を目指す基礎づくりに資するとあります。市民の幸福と3万人復活を目指す長井市にとってまことに的を射ている事業だと思えます。ことしは組織づくりとイベントを通じた出会いの場の創出を予定するとありますが、具体的な策をお伺いします。

また、より効果を上げるためには、近隣の自治体とともにやるのがよい結果につながると思えますが、いかがでしょうか。ご所見をお伺いします。

これで壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 竹田博一議員のご質問にお答えいたします。

議員の方からは、大きく2点ほどいただきました。

まず最初に、あやめ公園100周年記念事業といたしまして、あやめ公園はアヤメの花の育成に最大の力を入れるべきではないかという質問に、まずお答えをさせていただきたいというふうに思います。

議員の方からは、具体的に議員が奈良県の方からそういったがっかりしたという非常にショックなお話をお伺いしたということで、私も管理者として大変責任を感じております。ちょっといろいろ自分の意見も少し時間をいただいております。これは奈良のお客様がどういったことを長井のあやめ公園に求めておられたのかということによって随分実は印象が違ってくるといふふうに思っております。

私、30代のころに4年ほどまちづくりとか、あるいはこういった観光、レジャー、その当時リゾートという言い方をしていましたけども、そのプランニングの仕事をしたことがございます。若いときですからまだまだ未熟で、とてもとても話にならないんでしょうけども、単純に、簡単に申し上げますと、例えばあやめ公園という一つの花の公園、テーマパークを考えると、どういったお客様の層をまず想定するかということが一番重要なんですね。ですから例えば、よく国内旅行、そしてこういった東北に来られるお客様の層は中高年の女性が一番多い。ですからそれを若者向けの公園にしたなら、そういった方たちがいらっしやってもなかなかいい公園だなどは満足してもらえないんです。ここからスタートすると、ちょっと説教じみて恐縮でございますが。

ですからどういったことを例えば想定した層のお客様が長井のあやめ公園に対して期待するのかということ、いわゆるマーケティングという言葉もありますけども、リサーチをしながら考えていくわけです。そしてそのときのあやめ公園のイメージをどういふようなものにつくり出そうかと、いわゆるこれがコンセプトというやつですね、コンセプトをつくることから始まるんですね。そしてそのためにはハードの部分、公園の施設をどういふふうにつくるかということと、あとソフトですね、特にハード、

+

ソフト両面ですぐれているのが、いわゆる簡単に言えばディズニーランドですよ。お客様に何度来ても飽きさせないというソフトがあそこには十分あるわけです。そういったことなどをまず考えます。そういった場合、議員のご指摘のとおり、まずアヤメの花そのものがよくなければだめだというふうに思っております。

2月にあやめ公園100周年記念の記念事業の準備委員会というものを市民の皆様をお願いして、約50名の方からお集まりいただいている意見交換をしました。その際に、ある委員の中から、「アヤメの花はもっともっと充実させなきゃだめじゃないか」と、「昔はもっともっと背丈が高く美しい花いっぱい咲いていたぞ」と、「今あれでは話にならない」というお話ありました。これはごもっともで、確かに花はまだまだ改善しなきゃいけない部分がたくさんあると思います。花そのものと、あと見せ方もあるんですね、実は。今ああいう田んぼの稲のような植え方をしていますから、あらがすごく見えるんですよ。ところが、私たち子供のときは、ああいう植え方だけじゃなかったんですね。そういう見せ方もあるし、あと花もある。

けども、私、そのときお答えしたのは、私も市長にならせていただいてから、実はあめやサミット、これは職員からもう要らないんじゃないかと言われてたんですが、ぜひ私、勉強させてくれということで、千葉県の香取市、茨城県の潮来市、21年度は福島県の会津美里町、この3つの同じアヤメをシンボルにしている自治体の花を見てきました。まず、圧倒的にアヤメそのものは長井がすぐれています。もう比較にならないです。これは間違いありません。

あと、フラワー都市交流ってやっていますよね。残念ながら私はこの3年間で1カ所だけなんですよ、行ってきたのは。沖永良部ですね。これは沖永良部島に、ユリなんですけども、ユリ園があるわけじゃないんですよ、町の中にずっと

ユリがあるんです。スイセンは、ちょっと私、残念ながら見られなかったもので、これ悔しかったんですけど、あと長井でやったものですかからわからないんですね。いろんなことを見てみたいとは思ってるんですけども、ですからやっぱり見せ方、あとコンセプトなんです。それがまず基本だというふうに私は思っております。

あとは、多分長井のアヤメで私が思うには、お金がかけられないもので何とも言いようがないんですが、余りにもロケーションが悪過ぎるんですよ。いわゆるアヤメのイメージというのは、畑の中のアヤメじゃないんですね。普通の私たち中高年のイメージというのは非常に日本的な、例えば水辺に可憐にアヤメが咲いてるとか、あとは櫓船に乗ってアヤメの花を見るとか、そういう風情がなきゃいけないんですけども、残念ながら今のあやめ公園は風情がちょっと欠けている部分があるかなと。でも恐らく50年、100年前はすばらしかったんですよ、それでよかったんです。ところが、今時代が変わってきているということがあると思います。

そんなことで、100周年を迎えるに当たってこれから見せ方も含めて施設の整備も考えていかなきゃいけないと。残念ながらお金を、例えば安かろう悪かろうという意識がここ20年ぐらいのあやめ公園の管理の中にはあったなというふうに私は実は反省してるんです。これを変えなきゃいけないなど。けども、なかなかお金をかけられませんので、それをどういうふうにかバーしていくかというのが私は基本的な部分だと思います。

商工観光課長の方からは、アヤメ花の育成にちょっと重点を置いた答弁いたさせますので、私の方からは以上にさせていただきたいと思えます。

次に、長井牛まつりについてでございますが、継続事業としての考え方はということでございますが、牛まつりについては、販売店などで、

議員からご指摘ありますように、「長井の牛は本当に米沢牛ですか」と言われるということなんです。でも議員からありましたように、実は米沢牛の生産頭数においては飯豊町がずば抜けてますね。あと長井と米沢、実は同率2位ぐらいなんです。

米沢牛のチャンピオンの産出頭数、これについては平成5年から累計で本市が17頭、飯豊町が19頭、米沢が9頭ということで、飯豊町は飼育頭数が本市の倍以上でございますので、産出割合にすると長井市が最高ということになって、質がすごくいいと、米沢牛の一番いい肉は実は長井の牛なんだということをやっぱりPRしたいなと私は、議員からもご指摘のとおりそんなことで。ただし、お金と人が今まではできなかったということで、22年は何とかしたいと。ただ、人は残念ながらいない中なものですから、やはり生産者の方あるいはJA全面的にご協力がないと今回も多分成功しませんし、これからも継続することは難しいだろうというふうに思っております。

例えば、いろんな生産者の団体ありますね。こういったお祭りをしてるのが、例えば、ものづくりのまちだということで製造業の皆さんはやっぱり工業展みたいなのを地元でもして下さるわけですよ。あと東京に行ったり仙台行ったりと自分たちの努力で見本市を、商談会を開いてると。あと菓子組合で長井の商工観光課の方からの支援で、それぞれのお店が協力し合っただけでお祭りをやってくださってるんですね。あとは麺類飲食組合、これも同じように自分たちで何とかもってお客さんを獲得しようということで、いろんなお祭りに出ていただいたり、あるいは新しい商品を開発したり、これは菓子組合もそうです、やっておられると。ですから私といたしましては、米沢牛の産出されている農家の皆さんにも、もちろん違う農業サイドでの支援はいたしますが、こういったイベントはや

っぱりご本人たちの意欲、これが一番だと。

昨年の農協の方の秋の感謝祭ですね、生産者の方、小関部会長とお会いして、「ぜひやりたいから協力してほしい」という依頼があったものですから、その後、役員の方とちょっと面談しまして、「自分たちも頑張るからやりたい」ということでございましたので、「じゃあ、22年度やりましょう」ということで今回やったと。

ちょっとあやめ公園100周年の記念事業としておりますが、これはできるだけあやめ公園ということで、そういったお祭りを盛り上げるということもあるんですが、そのときのやっぱりみんなで盛り上げようという機運が盛り上がったなら、その後もやるべきだと。予算は、そんな大きい予算はやっぱり病み上がりですから、財政がよくなったといってもですね。ですからかけられませんが、ぜひ生産者の皆さんと市が一体となってやればありがたいなというふうに思います。

開催時期等については、農林課長より答弁させます。

最後でございますが、3万人復活に関する事業でございます。議員の方からもいろいろご意見がございましたが、竹田議員おっしゃるとおりだと、私も全く同感でございます。婚活支援事業を実施するねらいというのは、結婚について長井市全体で支援する機運を醸成することがまず大事でありまして、活気ある長井市を再生させ、人口3万人復活という、いわゆる地域再生の取っかかりにしたいというふうに考えているところです。

平成21年度、山形県では若者は結婚を前向きにとらえられるよう意識啓発を進められたと。結婚について社会全体で支援する機運をつくるため、やまがた婚活応援事業を立ち上げたというのはご案内のとおりでございます。この組織には県内のすべての市町村と主な商工会議所、商工会、NPO法人などが参加をしております、県

+

全体で支援する方針を確認いたしました。

長井市では、平成22年度の予算に組織づくりとイベント開催関係の予算を計上させていただきました。組織づくりでは、仮称でございますが、「結婚サポーター」というような形で市内の各界各層から活動を支援するボランティアの方々を10名から20名、少しふやしたいと私考えておりますが、程度ご委嘱申し上げ、出会いの場の創出や情報収集に取り組んでいただいて、さらに結婚を社会全体で支援する機運づくりに活躍をお願いする予定でございます。

また、イベントに関しては、まず1つ目は、パーティー形式あるいはイベント参加型、パーティー形式も今まで長井でやってきたのは、夕方例えば6時ぐらい、仕事終わった皆さんが三々五々集まってパーティーをして、いろいろ話らいの中からカップルを見つけるという大体2時間とか3時間一本勝負ぐらいの形だったんですけど、それだけじゃなくて、例えば半日ぐらい時間をいただいて午前中の11時ぐらいから集まって一緒に料理をつくる。料理をつくるというのは非常にいいんだそうですね。その後、まず食事、つくったものを食べて、その後ちょっとレクリエーションをして、例えば夕方からそういったパーティーで最後盛り上がっているカップルが生まれるようにすると、これ1つの例ですけども。

あとは、例えばハイキングに行くとか、長井ダムの上流のトレッキングといいましょうか、そして今度山からおりてきてついでに山菜をとってきたやつを何か山菜鍋とかでやるとか、そういうことをやらなきゃいけないんじゃないかというふうに思っています。これは民間のイベント会社、そういった企画会社のアドバイス、共同企画でやりたいと思っておりますし、あとは、フラワー長井線を利用したいろいろなイベント。これは白鷹の商工会の青年部でお見合いパーティーをやったんですけども、長井としては、そ

ういったことももちろんありなんですけど、ぜひアヤメの時期に、いわゆる6月、ジューンブライドでございますんで、フラワー長井線のトッピングの列車をつくりまして、車内で結婚式を挙げてもらうと。

見せ物扱いじゃないんですが、例えばあやめ公園のところから見えるんですね、とまっていたかと。アピールして、そのときにあやめ公園にいらっしゃるいろんな観光客も含めた市民の方の祝福を受けるというような、そういったものも話題づくりとして考えているところでございます。出会いの場に限られてる若い人たちに少しでも多くの出会いを提供したいと考えております。

あと、近隣の自治体との連携については、議員のお考えのように連携をとって行うべきだというふうに思っております。現在、組織づくりなどに関して近隣の市町と連絡をとり合っております。例えば南陽市では、平成20年4月にボランティア制による民間団体として結婚推進室を設立しております。また飯豊町では、町長委嘱による相談員制度を昭和56年からつくってると。川西町では、平成22年度から長井と同じように結婚相談員制度を再び立ち上げる予定だということのようです。長井としては、このような動きに呼応して近隣の自治体との情報交換を密にしていきたいというふうに考えております。

ただ、やっぱり一番困るのは、それによって長井の女性とか男性がほかのところに行ってしまおうというのは、これは何としても避けたいなというふうに思っておりますので、その辺も考慮しながら、ぜひ楽しく仲よくなれるような出会いの場を市としても考えていきたいというふうに思います。

私の方からは以上でございます。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答え申し上げます。

あやめ公園の花の育成についてでございます

が、平成15年から専門の職員をお願いして栽培技術の向上に取り組んできてございます。あやめ愛好会あるいは改良普及場あるいは日本花菖蒲協会等々のご指導を得ながらこれまでやってきたわけですが、近年の状況等を見ますと、公園の作業員の努力の成果が確実にあらわれてきているのではないかというふうな感じがしてございます。今後とも技術の向上に向けて取り組んでまいりたいというふうに思っています。

また、先ほど市長の方から、栽培技術とともに花の見せ方も重要であるというふうなお話がありましたのですが、ことし22年度につきましては、特にこれまでやっておりました一条植えあるいは千鳥植えのほかに斜行植えと言ったらいいでしょうか、斜めに植える、あるいは円形に植えるというふうなことなどにも取り組みながら、いい花がきれいに見える、あるいは空間的に楽しいと、そういうふうな配置なども考えていきたいというふうに考えてございます。

それから、マルチシートについてはどうなんだろうというふうなご意見等もございます。これにつきましては、沿路から見える部分についてはできるだけしないような形で、作業の負荷等も勘案しながら取り組んでいきたいというふうなことで考えてございます。

よい花を育てるためには、前の年の花が終わってからの改植作業が重要な状況になります。改植に当たりましては、いい株を確保するというふうなことから、改良種については2年サイクルで改植をしていこうというふうなことで考えておりますし、シーズン終了後できるだけ短期間に、しかも良質の土壌の入れかえをしながらというふうなことが重要になります。これに対して可能な限り十分な対応をとっていきたいというふうに考えてございます。

あと、昔と比べまして花の丈が低くなったというふうなお話はたくさん聞くわけございま

すが、これにつきましては、ハード的な状況もでございます。沿路が高くなって畑、栽培地が低くなって、どうしても上から見ざるを得ないというふうな状況の場所もでございます。こうしたハード部分につきましては、今後できることから改善をしていくというふうなことで考えていきたいというふうに思っています。

作業員の方につきましては、一生懸命頑張らせていただいておりますが、気候の変化あるいは予期せぬウイルスあるいは疫病等の発生等は常にあるわけで、経験と、あるいはデータを蓄積しながらさらによりよいものにしていきたいというふうに考えておりますので、よろしくをお願いをしたいと思います。以上です。

○町田義昭議長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

長井牛まつりの開催時期、場所についてはというご質問でございますが、昨年のお終りから米沢牛振興部会長井支部の代表者を始め関係者の皆様と検討を重ねてきているところでございます。検討の経過につきましては、あやめまつりの時期に高台もしくは河川敷公園というのと、それから水まつりの日につつじ公園を会場とするのが有力候補として議論されておまして、会場確保の面等を考慮いたしますと、どちらかという水まつりの日につつじ公園という方向が浮上しているところでございます。

ただ、最近あやめまつりの時期に開催してもらいたいというふうなご要望を承っておりますので、再度精査をいたしまして検討を重ねなければならないと思ったところでございます。

なお、実行委員会を早急に組織いたしまして、最終的にご決定をいただく必要があると思っております。以上でございます。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 どうもありがとうございました。

そこで商工観光課長にお伺いしますが、全

+

国あちこちにアヤメ公園または花ショウブ園があるわけですが、行かれたことはありますか。そして、もし行ったならば、長井のアヤメと比べましてどうでしたか。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

私が見学あるいは見させていただいたというのは、香取市、それから毛越寺でございます。この時期、ちょうどアヤメの時期にお客様等があつて外に出る機会がなかなかとれないというふうな状況がございまして、その2つだけでございます。

その感想でございますが、花を見るというよりは全体を見るというふうなことが、例えば香取市さんあたりですと、そんなふうな印象が強い感じがいたします。花を一つ一つ見るというふうなことではなくて、花あるいは堀、水あるいはその付近の池、そういったふうなものが一番最初に目に入ってくるというのがどうも他の公園の全体のイメージだなというふうに感じております。花を一つ一つきちんと見るというふうなことから考えますと、私は長井のあやめ公園というのは、そういった見方に対しては、ある意味ではいいものを持っているというふうな感じを持っております。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 さっき市長から層によって見る目が違うというお話がありましたけど、そうじゃなくて、万民のお客様にすばらしいと言われるようなあやめ公園にするべきだと私は思うのであります。そして、アヤメの育成に力を入れるのは基本中の基本である、そしてまた、それじゃあ、私のお客様が間違つてというか、過小評価したのかなとも思えないので、そこは少しはやっぱりあんまり自信過剰にならないで、しっかりアヤメの育成に力を入れるべきだというふうに思います。幾ら最高にしても切りがないんですね、アヤメの品物をよくすると

いうのはもう切りがないというか、天井がないというか、最高の努力をしていただきたいというふうに思いますけども、その点はどうですか。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

自信過剰になつてゐるわけではありません。ただ、アヤメの花そのものはもっともつとよくしなければならぬというふうに思いますが、例えば大きく違うところ、アヤメの違うところは植えかえをしなきゃいけないんです。こういうふうにしてやったやつをずっとそのままではだめなんですよ。株分けして植えかえをしなきゃいけない。なおかつ土も入れかえしなきゃいけない。ですから非常にお金のかかる公園だということなんですね。

例えばあやめ公園の予算の、それこそ査定の段階、市長復活でも私いろいろ職員とも財政とも議論いたしましたけども、担当課はアヤメの土をもっと入れたい、入れかえしたいから350万円ぐらい要求するわけですね。ところが、財政の方では、まだ長井はそこまですぐにはできないから我慢してほしいということで、200万円とかにせざるを得ない。そういったことをしながら、本当に現場の作業員も含めてみんなアヤメをこういうふうによくしてきたんですよ。ですからそれがもうこれで十分だなんて全く思っておりません。ただし、アヤメの花そのものということもあるんですけど、見る層によって違うと。

ですから私言つたのは、ちょっと誤解があつたようなんですが、竹田議員のお客様を決して非難してゐるわけじゃないんです。そのお客様はどういうものをアヤメに対して求められていらつしたのかと。それに対して残念ながら長井のアヤメは求めるものが違つたということなんです。去年のアヤメの時期に私が何回かやっぱり時間があつたら回りたいと、できるだけお客様に声をかけていろいろ意見をお伺いしたり

するようにしています。

こういうお客様がいらっしやっただんです、去年。50代ぐらいの女性の方と80歳ぐらいのお年を召した男性、おじいちゃんがいらっしやっただ。その方に声をかけたら「東京から来ました」と。

「いや、実は長井のアヤメというのは昔からうちの父親が来たかったんだ」と。大学の植物学が専攻の先生だったということをおっしゃいましたけども、いろいろ聞いてたけど、すばらしいと、長井のアヤメは。その方はアヤメの花に関心があるんですよ。いろんな種類があって、500種、これ100万本というのは日本一なんですよ、まさしく。ところが、観光客を集める数では日本一じゃないんですよね。そんなことから多分、竹田議員のお客様は、どういうことを求められてたのか、ちょっとそこがミスマッチなんだろうなというふうに思いました。

あと、議員からありましたように、万民が満足する公園というのは、もちろん市の公園ですからこれを目指さなきゃいけない。ただ、近年、子供たちがあやめ公園に見向きもしないというのはわかりますよね。それは自分の子供のときから考えればわかるんですよ。アヤメの花を見るんじゃないんですよ、写生大会で確かに見て、「ああ、きれいだな」って小学校のときは写生大会に連れてこられるのうれしかったです、学校で。けども、ついでに品定めするわけですよ、あっ、ここにこういう例えばサーカスがある、お化け屋敷がある、ここの出店にこういうのがあると。そうすると、うちに帰って父親とか母親に頼むわけですね、今度連れてってくださいと。それはアヤメの花が見たいからだということじゃなくて、そっちの方を期待してるわけです。

ところが、今、何で子供たち来ないかということ、そういった満足するものがないんですよ。けども、これをしたくてもいろんな課題がある。例えば高台。よく市民の皆様からおしかり

を受けました。高台あんなふうにして台なしにしてしまったと。出店とかサーカスとか見せ物をやっているのが楽しみだったんだよね、しかも辰巳の方向で一番南東の入り口をふさいで何事だと、北から入れるなんてとんでもないと。何億円かけたから知りませんが、7億円、8億円かけて台なしにしたというふうにおっしゃってますよ。けども、その当時はそれがいいということで議会も判断してああいう工事をなされたわけですから、それはそれで私はよしとしなきゃいけないと。ただ、これからどうするかといったときに、一朝一夕ではいかないと。お金もかかるし、いろんな努力をしないと残念ながら万民が、市民の皆さんがすばらしいという公園になるには、まだまだ時間かかるというふうに思ってます。

ですから私は、そこを危機感を持たせなきゃいけない。まず市の職員、観光協会、あと、あやめ公園にかかわっているすべての人、危機感持ってないですよ、今までは。でも700円にしたことによってすごく言われるわけですよ、あと自分たちも、700円もらっていいんだべか。それと同じなんですね。結局、昭和の60年代から500円なんです、実は。ですからそれを700円に上げられないというのは、悪かろう安かろう。そういうものじゃないんだというふうに私は思います。

少し長くなって恐縮です。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 前は、商工観光課長からも説明ありましたが、道路が低かったんですが、今は若干高くなっているんで、もう上から見おろすような形で見なくちゃならないと。やっぱり昔から花は下から見ると、私はそういうふうに教えられました。あそこを下げるというのは大変でしょうが、それはちょっと不可能というか、大変お金がかかることで、そこまではないかなくてもアヤメの育成に力を入れて今後も

+

やっていただきたいなというふうに思います。

次に、牛まつりについて農林課長にお伺いします。

時期は、水まつりにつつじ公園ですとか、何かちょっとねじれているような気がするんですけどね。つつじ公園にするんならつつじまつりのときにする、それから水まつりにするんなら水まつりの会場です、アヤメのあれですんならあやめ公園ですというように、わかりやすいやりの方がいいと思うんです。

そしてまた、水まつりのときにつつじ公園ですというの、ちょっと理解できなんですけど。お祭りですから、やっぱりあんなだれもない、ツツジも咲いてないところで小じんまりとするのは何かちょっとお祭りめかないとか、PRにならないとか、おかしい考えだなあというふうに思うんです。そのところはどうか。

○町田義昭議長 遠藤正明農林課長。

+ ○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

牛まつりにつきまして、かなり昔開催した経過があるようでありますけれども、大分時間が経過しております、ノウハウが途切れているというようなことがあります、全力を挙げて取り組んでまいりたいと思っております。

先ほどのつつじ公園での開催の問題でありますけれども、やはり水まつりの会場ですと、昼からずっと会場がさまざまなイベントで使われているというようなことがございまして、つつじ公園ですと、すばらしいロケーションの中で、それこそ風情のある場所ですとできるというようなことがございまして、そういった案が出てきたところでございます。

なお、いろいろご意見を承りまして、精査を重ねてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 そのところを慎重にご

検討いただきまして、水まつりなら水まつり会場、そして売店も利用するというような趣旨で、アヤメ期間中にするならあやめ公園、そして売店を利用するというような趣旨で今後検討していただきたいなというふうに思います。

それから、第3番目の3万人復活に関する事業について市長にお伺いします。

今、昔は男は肉食系、それから女は草食系なんて言われましたけど、何か今の男性はだんだんと草食系になって、そのかわり女の人肉食系になってるというようなことが言われておりますけど、さっき市長の答弁で、パーティー式とか料理を一緒につくるとかハイキングとか、いろんな例を挙げていただきましたけども、どうしても女の方は自尊心が強いとか、そういうところ出席する人が少ないというふうに思うんです。男の人ばかりいて、女の人ぼろぼろでは効果が上がらないわけで、女の人たくさん出席してもらうには、どのようなことをしたら出席してもらえるかなというふうなことをお伺いします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

今回、婚活事業の、やはり市の職員だけではなかなか今の若い人たちのニーズといいますか、希望しているようなものをとらえることがちょっと難しいのかなというふうに思って、山形市内のイベント企画とか広告代理店をなさってる会社の方にちょっと相談しました。そうしましたところ、いろんな事例を紹介してくださいました。

1つ、東根市の事例を申し上げますと、空港でパーティーやるんだそうです。それだけであんまり何もこれといったことをやらなくても人が集まるんだそうですね。ただ、東根市内の人ということで限定してませんので、いろんなところから集まっていってらっしゃるということなんですよね。いわゆる空港という山形に住む人間

にとっては何か空港からすぐ、空港の中でやるだけです、みんなで飛行機に乗るわけじゃないんですが、そこだけで集まると。そういったいわゆる感覚、フィーリング、フィーリングという言葉自体もちょっと今、死語なのかもしれませんが、そういった感性的なものが必要なんだろうなというふうに思っています。

長井の場合は、具体的に結婚の相談のサポーターみたいな方、これは10名で予算は考えておりますが、私はできるだけ多い方がいいというふうに思っています。企業回りでやっぱりお願いしてもらえないんですね、そういう人たちにも、ぜひ企業内の独身の女性に参加してほしいと。もちろん男性もということですね。あとは結婚相談員でそういう人たちに何とかして声をかけていただく。

あと、イベントの中身は魅力あるものじゃないと多分集まらないだろうというふうに思いますので、そこをいろいろ考えていかなきゃいけないと思います。竹田議員の方からもそういった独身の女性とかに声をかけていただいて、ぜひ参加しろということで、お力添えいただければ大変ありがたいと思います。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 最後の質問になると思いますが、4日の日にいただいた資料があります。長井市婚活支援事業（仮称）となっておりますが、22年度は252万2,000円で縁組数が5とあって、それから23年は163万2,000円で予想縁組数が7とか、それから24年度は93万2,000円で10組とあってありますけど、だんだんと22、23、24になっていくに従って予算が少なくなっていくと。その割には縁組数がだんだんとまとまっていく数が余計になっていくというような資料でありますけど、これはどういうことですか、説明いただきたいなというふうに思います。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

総合計画の実施計画ということで上げておりますが、いわゆるイベント型でいろんな取り組みを市でするのではなくて、相談員、サポーターといいますか、そういった方々の地道な活動が、22年度は初年度ですからなかなか時間かかると思うんですが、定着しないと思うんですが、2年、3年と定着してネットワークが構築できると。やっぱりネットワークがないんですね、情報が。それが2年、3年たつとある程度整備できるということで、予算の方をある程度削減しても、実績は上がるというよりも上げたいという希望系の実施計画で上げさせていただいたところでございます。以上でございます。

○町田義昭議長 1番、竹田博一議員。

○1番 竹田博一議員 これで質問を終わります。ありがとうございました。

○町田義昭議長 ここで昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前 11時57分 休憩

午後 1時00分 再開

○町田義昭議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

大沼 久議員の質問

○町田義昭議長 順位7番、議席番号11番、大沼久議員。

(11番大沼 久議員登壇)

○11番 大沼 久議員 地方分権一括法の施行以来、市議会に対する風圧を感じ、議会の活性

+